

市民派連合

質問者

篠原 敏宏

上條 元康・古畑 秀夫



持ち時間100分

第六次総合計画で描く「都市像」とは

◆市長のめざす「新しい塩尻市」の都市像とは

問 百瀬市長は選挙戦を通じて「新しい塩尻市」の中で「新しい塩尻市」を創ることを掲げているが、そこで描く「都市像」とはどういうものか。

答 前市政と同様「確かな暮らし」の価値と本市がもつ豊富な資源、田園都市としての強みが本市の町づくりの基調になる。これを踏まえ「田園都市」を再定義し、9月定例議会で第六次総合計画長期戦略案として市民がより幸福を実感できる都市像を示していきたい。

(市長)

◆長野県の美しい伝統的工芸品を未来につなぐ条例について

問 長野県議会2月定例会において議員提案による「長野県の美しい伝統的工芸品を未来につなぐ条例」が可決施行された。同条例で期待される市町村の責務とは何か。またこの条例の趣旨に該当する施策で本市がすでにやっているものがあるか。

答 この条例の基本理念は、まさしく現在の木曾漆器が抱える課題や目指すべき方向性と合致している。本市の責務は漆器産地における「需要・販路の拡大」「後継者の育



県条例による漆工産地平沢の再生に期待

成・確保」であると考えている。本条例施行をきっかけにこれまで以上に県との連携を高めるとともに、県内伝統的工芸品産業のトップランナーとしての木曾漆器の振興・発展に取り組んでいく。

(産業政策課)

◆市内の医療及び介護体制の再構築を

問 一次医療を担う個人

医院・病院について、後継者不足から廃業に至る個人開業医、医師不足から診療科の廃止を余儀なくされる市内病院の実情はどうか。また、市内医療機関への搬送率が4・7%しかない救急搬送の実態、産婦人科、小児救急外来が無い等の状況を総合的にみると、本市の医療体制の課題は中核医療機関がないことに行き着く。市が運営の中核を担う市民病院の新設を構想すべきと思うが、市としての見解は。

答 県の地域医療構想によると、松本圏域全体では必要病床数など地域に必要な医療提供体制は維持されている。市が総合病院を設置するには既存の5病院や塩尻医師会などとの調整、医療スタッフ確保など多くの課題があるほか莫大な費用が想定されることから、現況では市立病院を持つことは考えていない。

(健康づくり課)

要望 六次総の検討項目にぜひ加えてほしい。



市内の医療状況はこれからの最重要課題

◆「小規模特認校」導入の前倒し実施について

問 昨年義務教育学校と

してスタートした榑川小中学校の1年目の成果はどうか。また、令和7年度から他通学区からも児童・生徒を受け入れるという「小規模特認校」導入について、6年度からの前倒し実施の要望が学校から教育委員会に提出されていると思うが、教育委員会としては、現在どのような対応方針をもって臨んでいるか。

答 校長以下教職員の努力や地域の理解、協力などにより、九つの学年間の異学年交流や地域との連携など、さっそく成果が現れている。

また小規模特認校の前倒し導入については、学校及び榑川地域振興協議会から4月26日に要望書を受け取った。以降、2回の打ち合わせ会議を行い、制度導入に必要な例規改正の手続き等を現在進めている。

(教育総務課)